

# 平成30年度予算見積調書(2月補正予算)

課室名：農業政策課  
 担当名：企画・試験研究調整担当  
 内線：4035 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
B4	埼玉スマート農業推進事業			一般会計	農林水産業費	農業費	農業研究費	農業技術研究センター費	
事業期間	平成30年度～平成32年度	根拠法令	なし	宣言項目		09	儲かる農業の推進		
				分野施策		040936	農業の担い手育成と生産基盤の強化		
<p>1 事業概要</p> <p>農業就業人口が減る中で、農業生産を維持、発展させていくために、農業分野にAIやドローン等を活用し、熟練農家の技術の見える化や生産性の向上、作業の省力化を図る。</p> <p>(2) ドローン、AI等を活用した作業の省力化 △2,228千円</p> <p>(3) ビッグデータを活用した精度の高い病害虫発生予察情報の提供 △296千円</p>				<p>5 事業説明</p> <p>(1) 事業内容</p> <p>ア AIを活用した熟練技術の伝承 4,772千円</p> <p>イ ドローン、AI等を活用した作業の省力化 4,357千円→2,129千円</p> <p>ウ ビッグデータを活用した精度の高い病害虫発生予察情報の提供 4,150千円→3,854千円</p> <p>(2) 事業計画</p> <p>ア 摘果すべきなしの果実を判断できるメガネ型デバイスで利用できるアプリの開発</p> <p>イ ドローンを活用した水稻・麦栽培の省力化と安定生産技術の開発</p> <p>ウ 病害虫防除所の蓄積データと気象情報を活用した病害虫発生予察ツールの開発</p> <p>(3) 事業効果</p> <p>農業生産の向上、作業の省力化により、多様な担い手が安定的に生産できる農業が実現され、農家一戸当たりの生産農業所得が増加する。</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況</p> <p>独立行政法人や民間企業、農業者等と連携し、技術の開発と実証を推進する。</p> <p>(5) 補正理由</p> <p>イ ドローンを活用した水稻・麦栽培の省力化と安定生産技術の開発 備品購入費が予定を下回ったことによる減額</p> <p>ウ 病害虫防除所の蓄積データと気象情報を活用した病害虫発生予察ツールの開発 病害虫発生予察ツールの開発委託費が予定を下回ったことによる減額</p>					
2 事業主体及び負担区分 (国1/2・県1/2)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×4.9人=46,550千円									
予算額		財源内訳						一般財源	補正後の 予算額
		国庫支出金							
決定額	△2,524	△1,262						△1,262	10,755
現計額	13,279	6,479						6,800	